

その時

市議会はこう動いた

～住民の悲願 JR南武線稲田堤駅橋上駅舎ができるまで～

- 令和6年6月2日 JR南武線稲田堤駅の自由通路が全面開通し、住民が「開かずの踏切」を渡らずに駅改札を利用できるようになった。
- ここまでの道のりは、長い時間と努力が積み重ねられたものだった。そこには住民の強い要望、それを受け止め、粘り強く行政に働きかける市議会の働きがあった。

駅舎概要

駅舎名	JR南武線 稲田堤駅
開設年	1972 (昭和47) 年
所在地	神奈川県川崎市多摩区
駅舎コンセプト	「～つながり・おもてなし・にぎわい～」
駅舎デザイン	<ul style="list-style-type: none">✓ おもてなしの外観✓ 多摩川崖線 (丘陵) を想起させる屋根形状✓ 分断されていた商店街の賑わいを感じられる開放感

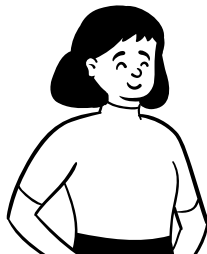
登場人物



市議会代表
およよん



行政



住民の皆様



- かつては線路片側にしか改札口がなく、通勤通学時には改札口が混雑、また、踏切遮断時間が長く、多くの歩行者が滞留するため、自動車との接近等、危険な状態だった。

～かつての稲田堤駅の様子～



児童の通学



改札口の混雑

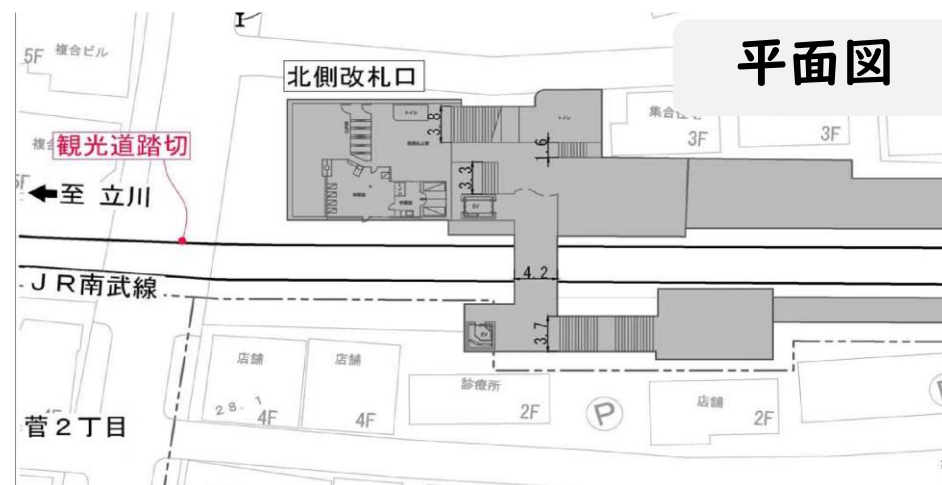


住民から上がる不安な声

ラッシュ時は踏切の遮断時間が長く踏切前に駅利用者があふれていて踏切横断が怖い...

ラッシュの時は改札口から人が道路にあふれており安全性は大丈夫なのか...

踏切利用者が多く、歩行者の通路帯は人であふれおり、児童の通学で踏切を渡るのは危険ではないか...



- こうした危険な状況の解消を求める声が高まる中、住民から平成15年に「JR南武線中野島駅と稲田堤駅に臨時改札口開設を求める請願」が提出された。

請願第156号

提出日：平成14年11月27日 提出者：多摩区在住者ほか5,243名
主旨：「JR南武線中野島駅と稲田堤駅改札の混雑緩和と踏切事故防止のため臨時改札口の開設をお願い申し上げます。」

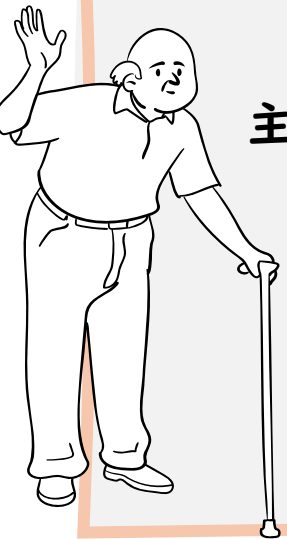
1. 人口増加が進み、南武線中野島駅・稲田堤駅の朝の混雑が深刻化している。
2. 遮断機をくぐるなど危険行為が発生し、事故発生の恐れが高まっている。
3. 朝の混雑時間帯に臨時改札口の設置をしてほしい。

請願・陳情とは…

市議会では、市政などについての意見や要望を請願、陳情のかたちで受理しており、議長は受理した請願、陳情を本会議で所管の委員会に付託します。

請願：賛同する市議会議員の紹介が必要で、付託された委員会での審査後、本会議でも採択・不採択について諮ります。

陳情：市議会議員の紹介を必要せず、委員会でのみ審査し、本会議には諮りません。
(すなわち、委員会での結論(採択・不採択)が議会での結論となります。)



- 市議会では、この請願による住民の要望を受け止め、行政に対し改善に向けた協議と対応を求める取組を開始した。



平成15年2月7日 まちづくり委員会
主な議論



Q 人口も増え、踏切の危険度がさらに増すと思うがどのような認識か。

A:改札口も絡んでくると思うが、踏切周辺の歩道幅員と踏切拡幅の危険性は確かに認識しております。

Q 暫定的でも臨時改札口を設置すべきではないか。

A:以前からもJRに要望はしているが、市の用地活用も含め引き続き要望してまいります。

Q 市が率先して駅前整備を行い、橋上化など事業を促すことはできないか。

A:駅前の早期整備の方策について、関係局と積極的に取り組みたいと思います。

審査結果

市議会からは・・・
「早期解決に向けて進んでほしい」、
「行政を後押しすることが住民への要望に応える道になる」など、
市議会から行政を後押しする声があり、全会一致の趣旨採択となった。

- 市議会では、請願審査を契機に、住民の要望を確実に施策へ反映させるため、行政へ働きかけた。



平成18年9月24日
決算審査特別委員会

Q

改札が片側のみで、利用者は踏切を渡る必要があります。
交通流の円滑化や改札改善のため、橋上駅舎化が必要と考えられます。

A: 駅の利用状況や周辺施設の立地など、各駅の特性を踏まえた効果的な対応が必要と考えております。

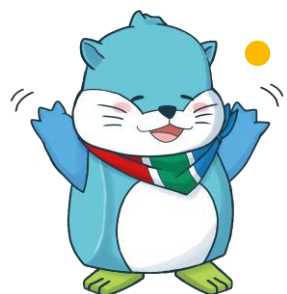


平成21年3月9日
予算審査特別委員会

Q

踏切の混雑解消を地域住民の方は願っています。
行政としてどのように受けとめているのでしょうか。

A: 地域の声を反映するとともに、JR東日本と協議し、最適なアクセス向上策の策定など検討していきます。



要望

相当数の方が踏切を渡らなければ駅を利用できない状況にあります。
いつ事故が起きてもおかしくない危険な状態であることから、引き続き、検討を強化していただくよう要望します。

- 議会からの働きかけなどもあり、行政は平成22年2月に「南武線駅アクセス向上方策案」を策定。稲田堤駅については、橋上駅舎化の整備を進めることとなった。
- ようやく住民の要望がかなうと思った。しかし、現実はその簡単にはいかなかった…

方策概要

事業名 南武線駅アクセス向上方策案

経緯 JR南武線の武蔵溝ノ口駅以北の片側改札口の5駅について、**利用者の利便性・安全性の確保、鉄道による地域分断を改善**させるため、駅アクセスの向上を図る取組を行う。

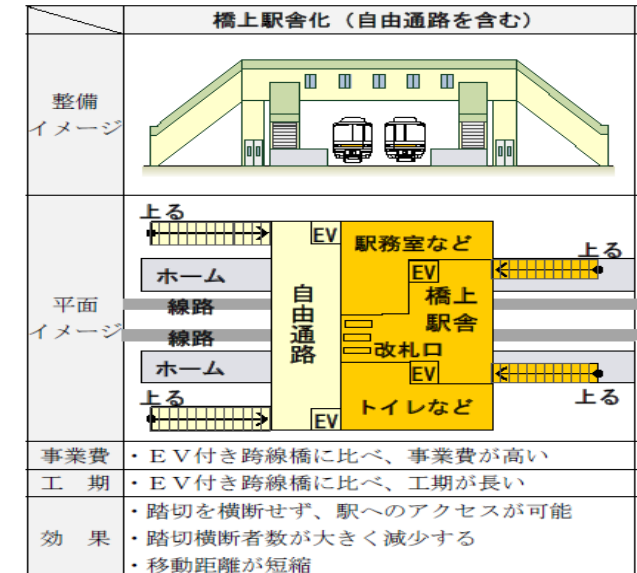
対象 ◆ **稲田堤駅** ◆ 中野島駅 ◆ 宿河原駅 ◆ 久地駅 ◆ 津田山駅

優先順位 橋上駅舎化の**効果等が特に高い稲田堤駅**の整備を最優先にする。

各駅の状況 (平成27年時点)

指標		稲田堤駅	中野島駅	宿河原駅	久地駅	津田山駅
踏切横断の利便性	最大遮断時間	31分/h	32分/h	33分/h	39分/h	40分/h
	歩行者通行量	28,392 人/日	19,045人/日	3,515人/日	9,045人/日	5,804人/日
踏切横断の安全性	横断児童数	498 人/日	400人/日	74人/日	80人/日	472人/日
	通学路の指定	有	有	有	有	有
	自動車交通量	2,415台/日	4,335台/日	7,452台/日	5,446台/日	3,278台/日
駅利用者の利便性	乗降者数	51,286 人/日	29,014人/日	15,602人/日	27,908人/日	7,572人/日

橋上駅舎化イメージ図



※川崎市まちづくり局資料「まちづくり委員会 南武線アクセス向上等整備事業の取組状況について」より抜粋

- 平成24年度に始まった用地交渉は、移転補償等をめぐる協議が進まず、用地取得が難航した。その影響で事業は前に進まず、完成予定が大幅に遅れることとなった。
- 市議会も早期に用地を取得し、事業を進めるよう、強く要望しつづけた…

当初計画



用地交渉
(平成24年度)



用地取得
(平成25年度)



工事着工
(平成26年度)



共用開始
(平成29年度)



平成28年12月時点でも地権者との
移転交渉がうまくいかず用地取得できず…

市議会からの声

平成24年11月22日

まちづくり
委員会

Q: **用地買収**のめどが立ってますでしょうか。

A: 具体的な補填交渉等を進め、少しでも早く進めてまいりたいと考えてます。

平成28年9月14日

第4回
定例会

Q: **地権者との交渉が難航**しているようですが、**進捗状況そして今後の交渉**について教えてください。

A: 地権者との協議に時間を要しております。早期整備に向け、関係地権者との合意形成に向けて、引き続き粘り強く協議を進めていきます。

平成28年12月9日

第3回
定例会

地元の人たちは**早くこの事業が行われることを望んでいます**ので、なるべく**早く地権者と合意が得られるように努力していただきたい**と思います。

平成29年によく用地取得がまとまり、工事が令和元年6月から開始となったが・・・工事期間中の安全性を不安視する声が寄せられ、住民から陳情が提出された。

住民から挙がる不安な声

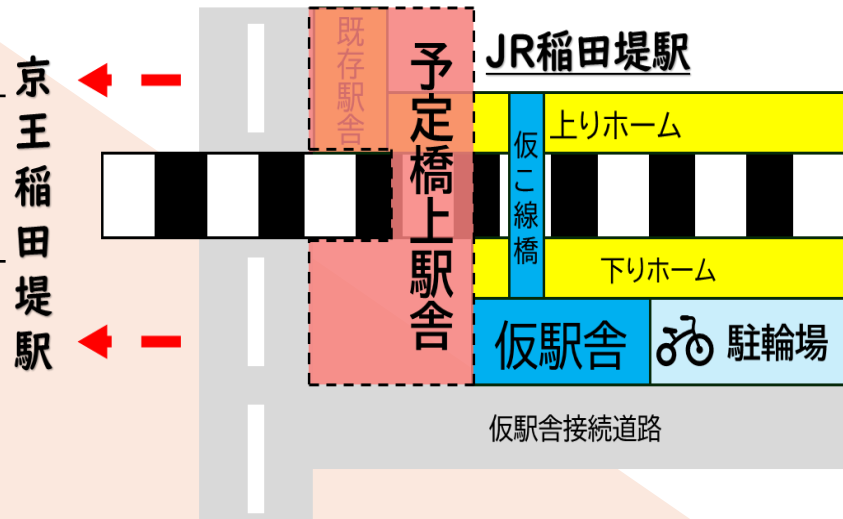


- ◆改札口が今までと反対になり利用者への周知は大丈夫か
- ◆仮駅舎前の接続道路が狭く、近くに駐輪場もあるため、人が集中して、混雑・滞留が生じ、安全に通行できなくなるおそれがある。

陳情第68号
JR稲田堤駅橋上駅舎工事の安全・大混雑緩和対策に関する陳情

提出日：令和2年12月7日
提出者：多摩区在住者 ほか541名

(陳情要旨)
JR南武線稲田堤駅橋上駅舎本体工事により、大混雑の発生が予想されることから様々な安全・大混雑緩和のための具体的な対策を講じてもらいたい。



- 提出された陳情を受け、市議会はその内容を審査し、工事期間中の安全性に関する住民の不安が依然として大きいことを確認した。こうした状況を踏まえ、市議会は行政へ安全対策の見直しと安全性向上を求める働きかけを進めた。

令和3年1月28日 まちづくり委員会 主な議論

Q

現状を踏まえ、さらなる安全対策の強化が必要です。
その中で、民有地の活用や北口改札の検討も含め、安全性向上に向けた市の姿勢を教えてください。

A:利用者の状況やご要望を的確に把握した上で、必要な対策を検討し、必要と判断した
ものについては改善を進めてまいりたいと考えております。



要望

安全対策を最優先し、費用がかかっても利用者の
安全を確保するよう強く要望します。

審査結果

市議会からは・・・
安全対策に対する姿勢を把握した上で、「安全対策をした上で、工事を進めてほしい」、「物理的に困難な要望もあると認識している」、「工事の状況を見守る必要性がある」等・・・
今後の工事を見守る方向性の声が上がった。(陳情は継続審査となった。)

- こうして安全面に配慮しながら工事が進み、令和5年8月6日、橋上駅舎と自由通路の一部が利用開始した。令和6年6月2日には、自由通路が全面開通し、踏切を渡ることなく改札を利用できるようになった。
- 市議会において多くの議論を積み重ねた結果、長年の住民の要望が形となったのであった。

Before



※川崎市まちづくり局「まちづくり委員会資料：南武線駅アクセス向上等の取組みについて」より抜粋

After





～住民の悲願 JR南武線稲田堤駅橋上駅舎ができるまで～